

農技第 1 2 2 0 号

令和 8 年 5 月 20 日

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和 8 年度病虫害発生予察注意報 第 1 号を発表します。

フェロモントラップにおいて、果樹カメムシ類の誘殺数が増加し、一部の地域では平年を大きく上回っています。果樹園での発生状況に十分注意し、防除対策を徹底するようご指導願います。

令和 8 年度病虫害発生予察注意報 第 1 号
果樹カメムシ類の発生状況と防除対策について

- | | |
|-------------------|--|
| 1 対象作物 | 果樹類（特にびわ、もも、なし、かんきつ、かき） |
| 2 病虫害名 | 果樹カメムシ類
(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 5 月中旬～7 月下旬 |
| 6 発生状況について | |
- (1) 本県では果樹カメムシ類（写真）の発生量に隔年性があり、本年は発生の多い表年に該当する。越冬世代成虫の活動時期は例年に比べて早く、4 月中旬から発生が確認されている。
- (2) 県内 3 地点（朝来市、加西市、南あわじ市）で実施しているチャバネアオカメムシ用フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、いずれの地点も 5 月上旬から増加傾向がみられている（図）。特に加西市では誘殺数が表年の過去 5 年の平均値を大きく上回っている。
- (3) 同トラップにおいて、加西市、南あわじ市ではツヤアオカメムシも 5 月上旬から増加している。特に南あわじ市では 4 月 1 半旬から 5 月 2 半旬までの誘殺数は 81.0 頭と同期間の過去 5 年の平均値（19.8 頭）を大きく上回っている。

7 今後の発生予想について

- (1) 昨年の秋期（9～10月）に越冬世代とみられる成虫が予察灯で多く誘殺されたことから、本虫の越冬量は多いと推測され、今後、園地へも多く飛来するおそれがある。
- (2) 今後、気温の上昇に伴って果樹カメムシ類の活動が盛んになり果樹園へ飛来すると予想される。大阪管区気象台の向こう1か月の近畿地方の気象予報（5月14日）では、気温が平年より高く推移するとされており、今後の被害発生に注意が必要である。

8 防除上の留意点

- (1) 果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なる。各園地で見回りを実施し、発生を認めたら速やかに薬剤による防除を行う。山林に近い園地では飛来量が多い傾向にあるため、特に注意する。
- (2) なし、ももの有袋栽培では、袋かけ作業を早めの実施する。袋をかけていても外部から吸汁される場合があり、多発時には思いがけず被害果が増えるおそれがあるため、袋かけ後の発生状況にも注意する。
- (3) びわの有袋栽培についても袋をかけていても外部から吸汁される場合があり、多発時には思いがけず被害果が増えるおそれがあるため、袋かけ後も発生状況に注意する。薬剤散布を行う際は収穫前日数に注意する。
- (4) 果樹カメムシ類は夜間を中心に活動するため、薬剤散布は夕方に行うと効果が高い。また、移動性が高いため、薬剤散布は広域的に一斉に実施し、地域全体の密度を下げるのが望ましい。
- (5) 薬剤散布を行う場合は、農作物病虫害・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

なお、合成ピレスロイド剤は効果が高く残効も期待できるが、天敵昆虫に対する影響が強く、ハダニ類など他害虫を誘発するおそれがあるため、使用にあたっては他の害虫の発生状況も十分に考慮する。



写真 果樹カメムシ類成虫
(左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

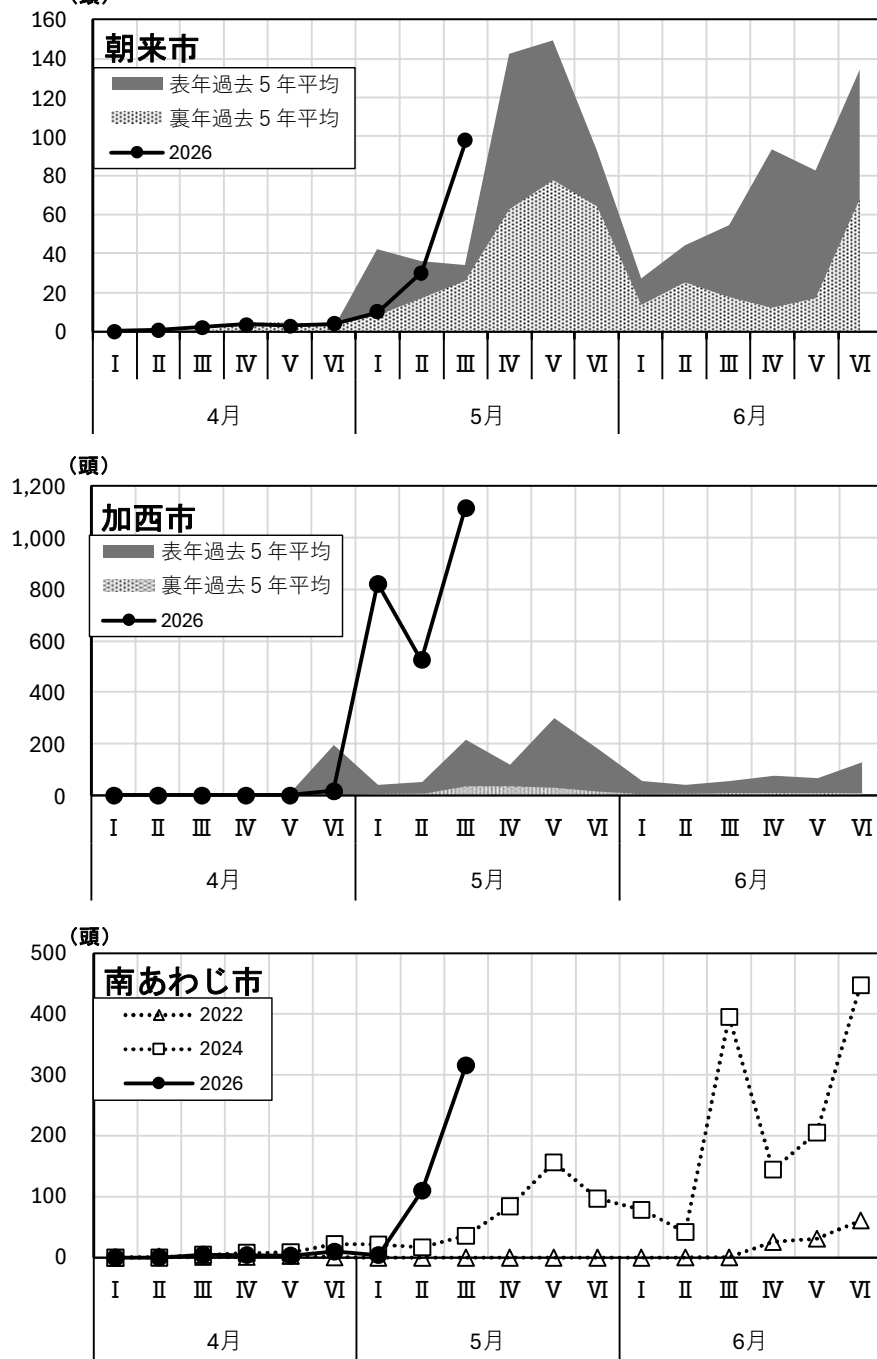


図 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

*この情報は、兵庫県病虫害防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>

*農作物病虫害・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

問い合わせ先 兵庫県病虫害防除所 0790-47-1222

「兵庫県病虫害防除所」X(旧Twitter)にて情報発信中。

フォローをお願いします。

Xアカウント (https://x.com/hyogo_boujoshou)

